

【（株）PUC】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

活用戦略で定めた「団体の将来像」

水道事業を包括的に担うことができる団体

重要課題 ①

人口減少や水道法改正など国内の水道事業を取り巻く環境が急速に変化する中、東京水道サービス(株)との統合のメリットを生かし、水道事業を包括的に担えることによる戦略的な取組をいかに推進していくか

検討の状況や今後の方向性

○事務系と技術系の統合によるシナジー効果を最大限に発揮し、窓口のワンストップサービス化や、平常時はもとより災害時においても機動的な対応を確保する等、お客さまサービスの向上を図る。

○統合にあたっては、東京水道グループの一員として、コンプライアンスの強化を図るとともに、技術やノウハウの継承と人材育成を通して効率的な業務運営体制を構築し、東京水道を包括的に支える体制づくりに努めることで、経営基盤の強化につなげていく。

○新団体の強みを活かし、国内の水道事業体における事業運営を支援、国内貢献等を行い、経営の自主性を向上させていく。

【（株）PUC】の課題と今後の方向性

重要課題 ②	経営基盤強化のため、戦略的な自主事業受託営業を展開することにより、さらなる新規受託を図る必要がある。
検討の状況や今後の方向性	<p>○水道法改正等に伴い、水道事業の広域化を検討している事業者について情報収集を行うとともに、現在、受注している松阪市及び秋田市の近隣自治体を訪問し、共同事務処理についての提案を行うなど営業活動を強化してきた。</p> <p>○当社が定めた5年後、10年後の中長期的な視点に立った、売上高や営業利益の目標値などに基づき、これまで受託した都水道局のお客さまセンターや水道関連システムの開発・保守などにおける経験やノウハウを活かし、新規受託に向けて戦略的な営業活動を展開していく。</p> <p>○これらの取組により、政策連携団体としての経営自主性を高め、経営基盤の強化を図るとともに、さらなる企業価値の向上を図っていく。</p>